

コンセプト素案に対する第3回会議でのご意見

※第3回会議の資料に加筆・修正を行ったものについて抜粋

	委員	ご意見	コンセプト素案の修正内容
1	河合委員 大倉委員 斎藤委員	これまで文化芸術へのかかわりが少なかった方々が、気軽に「はじめる」ことのできる環境が重要	P.3 「基本認識に対する考え方」に以下の考え方を追加 “市民が新しいものに触れ・体験することで文化芸術と出会い、気軽に活動を「はじめる」ことできることが、文化芸術の裾野の拡大・継承につながる”
2	川崎委員	新たな施設は、最先端のものを見ることができ、体験できる等により、新たなものを紹介していき、「自分にもできるのではないか」と文化芸術と出会うきっかけになるべきと考えている	P.4 活動のステージのうち、「はじめる」の部分に“きっかけづくり”という表現を追加
3	五島会長	このような施設・場が生まれることによって鳥取のまちが活気づく、魅力的になって人がやってくる、それによってさらに鳥取が元気になっていくというような、地域との関係も盛り込むべきではないか。	P.4 活動のステージのうち、「はばたく」の部分に“まちの活性化と魅力ある地域づくりへ”という表現を追加
4	斎藤委員	これまで関わっていなかった人に向けて裾野を広げるというコンセプトは重要であり、力を入れて取り組んでいくべき。加えて、与えられたコンセプトを利用者自ら見直し、本当によかったのか考え、刷新していく仕組みがあるべきだと思う。自分たちで考えるという視点のコンセプトが盛り込まれると良い。	P.4 活動のステージのうち、「はぐくむ」の部分に“市民が自ら考え・動く”という表現を追加
5	五島会長	市民の主体性が発揮されるというようなキーワードが基本理念に入ると良い。	P.5 基本理念を支える5つの場において、“市民が文化活動や施設運営に関わるなど、市民の主体性が発揮される施設”という記載を追加
6	五島会長	既にある施設との棲み分けも考える必要があるが、基本構想の中にはまちなかの施設との連携を組み込むこともある	P.5 基本理念を支える5つの場において、“まちなかを中心とした他施設の情報・連携が取れている”という記載を追加

【第3回会議資料 修正版】

新たな文化施設のコンセプト素案について

※第3回会議資料から赤字部分を修正

1. 新たな文化施設を取り巻く意見・課題の整理 ～ワークショップ・アンケートを踏まえて

- ✓ ワークショップ、ウェブアンケートより「みる・する・ささえる」に加えて、「つながる」の視点で意見・課題を整理
※第2回会議では「既存施設の利用状況」「将来動向」「ヒアリングの結果」を踏まえた課題を整理（第2回会議資料を参照）

みる

- 学びの要素が含まれるようなみる機会や、アートの価値観の変化等に対応したみる機会等への意見がある（例：対話鑑賞＝対話しながら舞台等を鑑賞、「みる」だけではなく「聴く」こともできるデジタル展示、触れるアート・味わうアート・分野横断のアートなど）

する

- 小人数を対象とした演劇やイベントの実施主体にとっては、利用料金・活動に適した施設（規模・設備）等の関係から既存施設の利用は敷居が高く、多様なニーズに対応できていない可能性（→練習室等を兼用した演劇・イベント等の開催が可能になるなど、計画面での工夫が必要）
- 演奏会や練習等のほか、様々な対象・内容の“する活動”に対するニーズ・要望がある（例：若者・こどもを含む多様な世代が興味を持てるイベント等の開催、実験的な公演、伝統芸能など歴史の継承に係る活動等）

ささえる

- 部活交流や部活動の地域移行を支えられる場が今後は特に重要
- 若年層や既存施設のライトユーザーにとっては、する・みるに成長するための機会が見込みにくい（→早い段階で美術・芸術に触れる・学べる体験、気軽に参加できる環境、地域での下支援が必要）
- 文化芸術活動の担い手・活動団体の減少を踏まえ、する活動を支える技術スタッフの育成やサポート体制を構築することで、地域の文化・芸術活動の安定的な実施や活性化につなげることが必要

つながる

- 人と人をつなぎ、コミュニケーションや交流ができる場に対する期待がある
 - 市民が気軽に立ち寄り、交流できる場（→こども、学生、社会人、シニアなど多様な人が利用できる）
 - 文化芸術活動を行っている人同士がつながる場（→新たな活動の創出にもつながる）

- 文化芸術活動の多様化・細分化が進む中で、新たに活動をはじめることや活動を継続することのハードルの高さはあるものの、新たな文化施設が、創造・体験・学びが得られる場であること、多様な人々が気軽に交流できる場であること、それらの活動・交流を支える機能の必要性などについての示唆が得られた

2. 基本構想の基本となる考え方（案） ～多様化する文化芸術活動の尊重と文化形成

修正

【関係者ヒアリングやワークショップ等を踏まえた基本認識】

- ✓ 文化芸術活動の内容は幅広く、また活動に関わる主体（の規模・体制）も様々
- ✓ これまでの文化芸術活動への関わり方、関心度、既存施設の利用経験等によって、施設に対する課題認識や機能のあり方に対する市民の意識に違いがある

【基本認識に対する考え方】

- ✓ （意識に違いがあっても）それぞれの活動や各主体の意欲は尊重されるべきもの
- ✓ 文化芸術活動の担い手は減少傾向にあるが、市民が新しいものに触れ・体験することで文化芸術と出会い、気軽に活動を「はじめる」ことができることが、文化芸術の裾野の拡大・継承につながる
- ✓ 関心・意欲のある市民の文化芸術活動を「はぐくむ」ことのできる環境が肝要
- ✓ 様々な活動や交流を通して、市民一人ひとりの関心度や経験値が成熟・変容していくことが個々人の自己形成や自己表現、自己実現に貢献し、結果として「はばたく」きっかけをつくることになる

あらゆる文化芸術活動や活動に対する意欲を尊重するとともに、多様な市民や活動が交わること、また、そうした交流・活動を支え、発信することが、地域の文化を形成し、文化芸術をみらいにつなぐことにも寄与（次世代への継承）

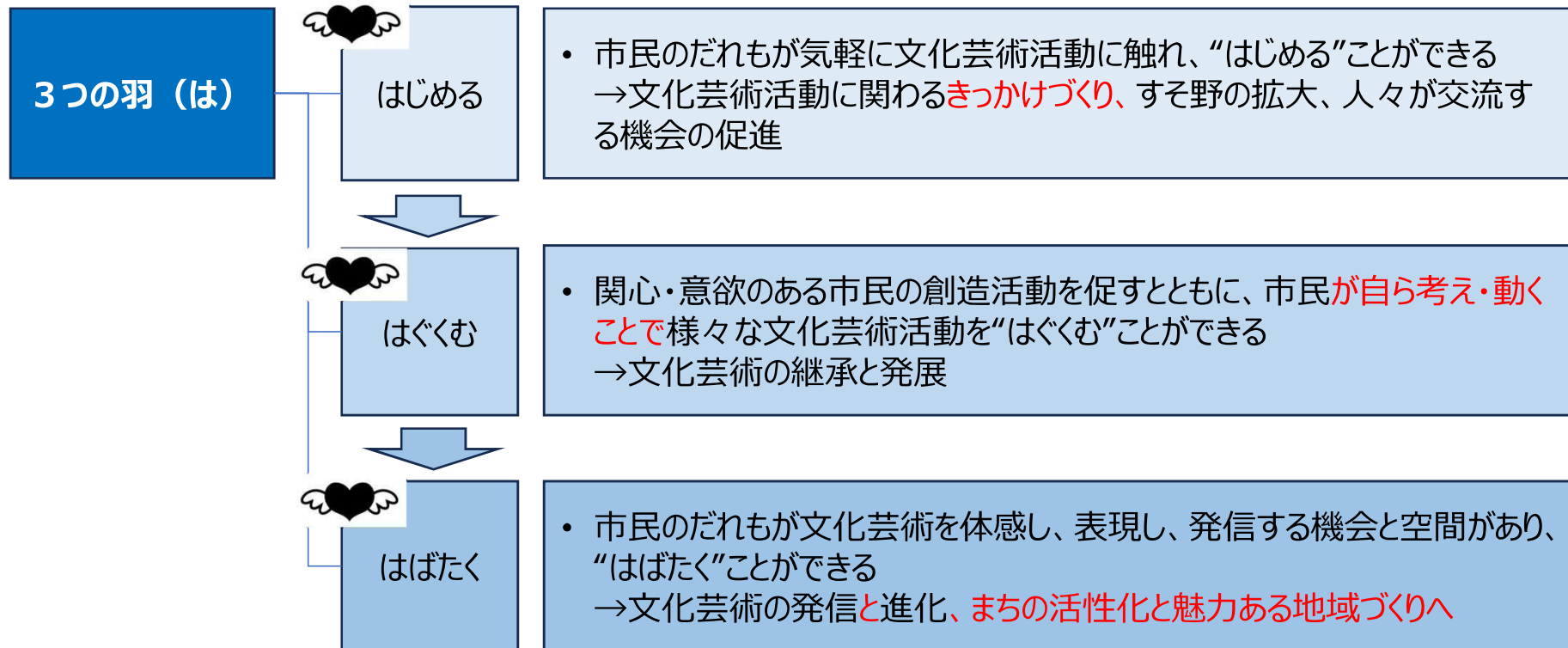
3-1. 基本理念（素案） ～理念と3つのステージ

【基本理念】

みらいをつくる Art Incubation Hub

～ひとりひとりが文化芸術に触れ、参加し、つながることのできる鳥取市の文化芸術の拠点

大切にしたい活動のステージ



※Incubation（インキュベーション：羽化・ふ化を語源とする育成・支援の意味）

※Hub（ハブ：拠点、結節点）

3-2. 基本理念（素案） ～理念を支える5つの場

基本理念を支える5つの場

①オープンな雰囲気、市民のだれもがアクセスでき、参加できるフレンドリーな場

【Open/Friendly/Accessibility】

- ・だれにでも開かれ、日常的に気軽に利用できる
- ・常に何かの活動が行われており、だれでも参加できる、身近に感じられる
- ・文化芸術に触れるきっかけとなる場
- ・初心者も気軽にはじめることができる
- ・多くの人が集い交流することができる

②ひとりひとりが多様な活動で創造し表現することを促す場

【Creativity/Expression】

- ・特定のジャンルに縛られず、市民の多様な文化芸術活動に対応できる
- ・新しいものとの出会いがあり、新たな創造活動につながる
- ・体験や学びとともに、一から創造する体験ができる
- ・人が見える、活動が見える
- ・癒しを得る、生きていく活力になるような体験が自主的にできる

③市民が自らの成果を発表・発信できるとともに、新しい文化芸術活動も体感できる場

【Experience/Edge】

- ・市民が自らの文化芸術活動の成果を表現し、発信することができる
- ・あらゆる市民が文化芸術に触れ、多様な文化芸術作品を体感できる
- ・ここに来たら新しい・最先端の何かを見る・体感することができる
- ・県内の伝統工芸や伝統芸能を含め、鳥取の文化を守り・地域で繋げていく芸術の拠点

④多様な人々をつなぎ、活動し続けられる支えあう場

【Connect/Develop/Communicate】

- ・活動や情報、鳥取の魅力の発信がされている
- ・活動間の情報交換・交流・連携を促す
- ・まちなかを中心とした他施設の情報・連携が取れている
- ・市民の活動をサポートし、文化芸術を継承し、創造し、発展させる

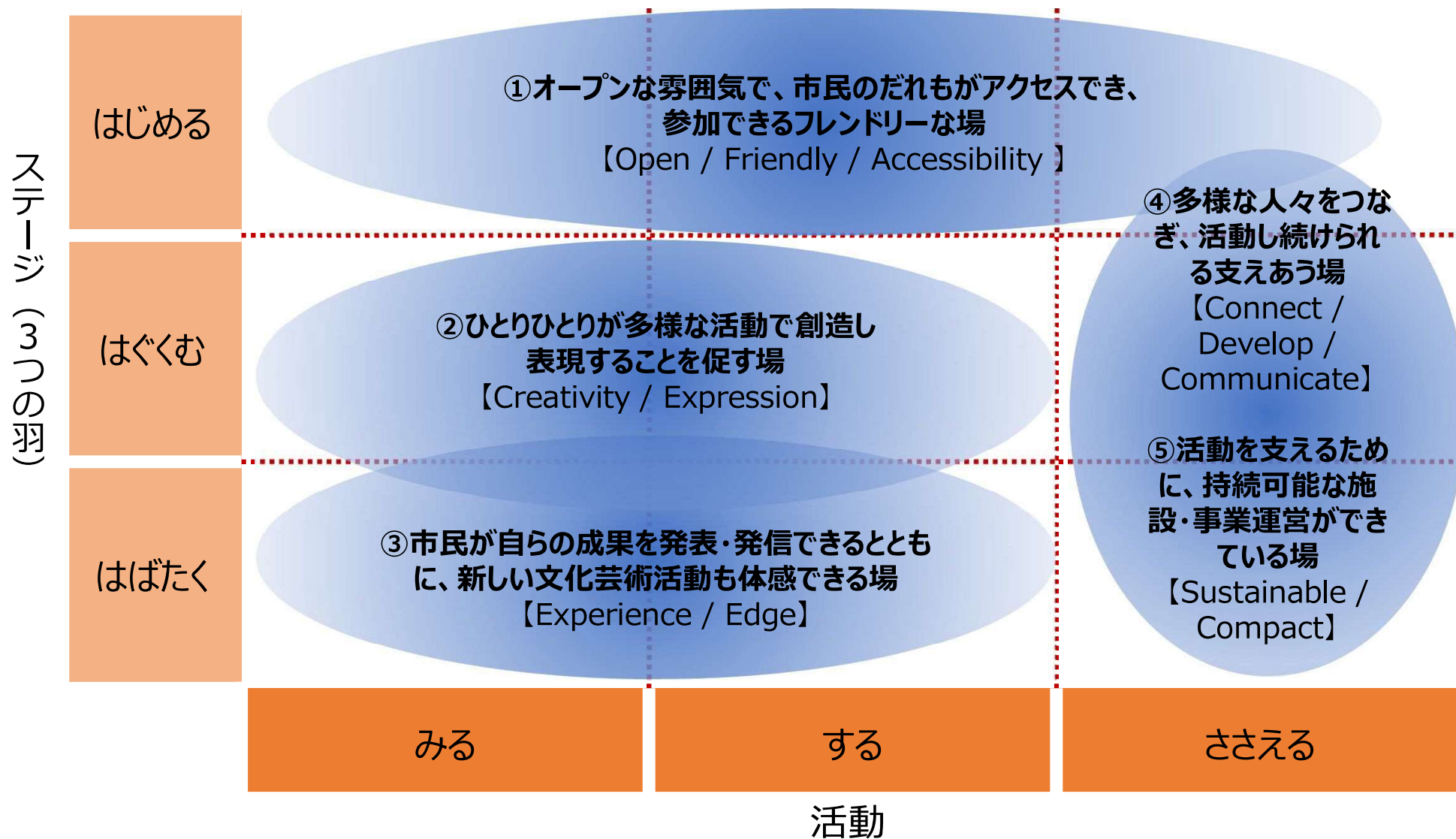
⑤活動を支えるために、みらいにわたり持続可能な施設・事業運営ができている場

【Sustainable/Compact】

- ・活動の身の丈にあった、真に必要な機能がある空間
- ・持続可能な体制、持続可能な運営が行われている施設
- ・市民が文化活動や施設運営に関わるなど、市民の主体性が発揮される施設

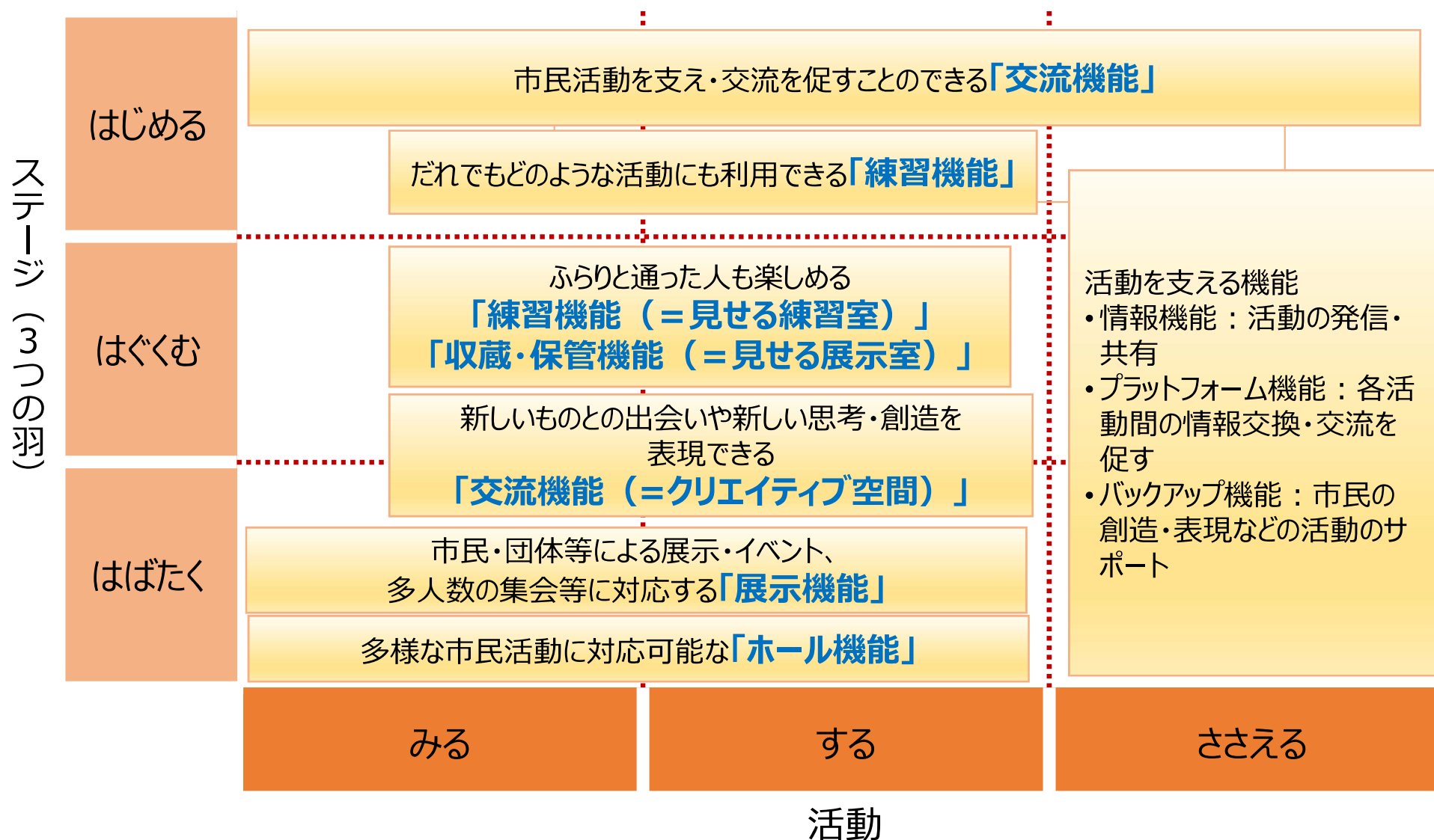
3-3. 基本理念（素案） ～ 5つの場とステージ・活動の関係

- スタージ（3つの羽）と、みる・する・ささえるの活動に対する、5つの場の関係



3-4. 3つの羽と活動に対する基本機能の整理

- 有識者会議、ヒアリング、ワークショップ、アンケートなどの意見を踏まえてコンセプトの視点と方向性を整理



3-5. 基本機能と活動とステージの対応関係

□基本方針に示されている機能

機能		活動			ステージ		
		みる	する	ささえる	はじめる	はぐくむ	はばたく
ホール	●多様な市民活動に対応可能な 『ホール機能』	○	○			○	○
練習 スペース	●防音性能の高い 『練習室』		○		○	○	
	●文化活動を表現する・見ることのできる 『見せる練習室』	○	○		○	○	
交流 スペース	●市民活動を支え、交流を促すことのできる 『交流スペース・会議室』		○	○	○	○	
	●市民の誰もが創造し・表現することのできる文化芸術に係る 『クリエイティブ空間』	△ 一部を 見せる空間に	○		○	○	○
展示 スペース	●使い勝手の良い 『展示スペース兼イベントスペース』	○	○			○	○
収蔵・保 管スペース	●収蔵と展示を兼ね備えた 『見せる収蔵庫』	○	○	○		○	○
駐車場	●『使いやすい駐車場』	○	○	○	○	○	○

□その他想定される機能（会議・WSでの意見を踏まえて）

育成・発 信機能	●多様な市民活動を支えるための各種支援・情報発信を行う機能			○	○	○	○
-------------	-------------------------------	--	--	---	---	---	---

■新たな文化施設で想定する基本機能

※諸室・機能のイメージは、有識者会議、ワークショップなどの意見を踏まえて整理

□基本方針に示されている機能

	想定される機能・諸室	機能のイメージ	規模のイメージ
ホール	●多様な市民活動に対応可能な『ホール機能』	・既存の文化ホールの機能向上を図り、 <u>一定の音響性能を完備</u> ・音楽・舞踊・演劇公演、式典・発表会・イベントなど <u>多様な用途、多様な市民活動による利用に対応可能なホール</u>	・利用実態・ニーズや他ホールとのすみ分けも踏まえ、 <u>小規模（300～600席）</u> を想定
練習スペース	●防音性能の高い『練習室』	・ <u>防音性能を確保</u> し、いつでも、だれでも、どのような活動にも対応可能な練習室（個人利用や多人数の合唱団・劇団による利用のほか、練習スペースを用いた小規模イベント等に対応可能なスペース）	・文化ホールにおける利用ニーズや要望を踏まえ、 <u>大きさ（少人数～多人数）、スペック（鏡、バトン等）の異なる練習室</u>
	●文化活動を表現する・見ることのできる『見せる練習室』	・ <u>外から活動を見ることができる練習室</u> →外に向けて日常的に表現活動を見せることもできる場 →人が見える・活動が見えることで、市民が新たな文化活動に関心を持ち、また、ふらりと通りがかった人も楽しめる空間	・大きさ・スペックの異なる複数の練習室 ・練習室と交流スペース（多目的空間）の一体利用も想定（＝小規模イベント・公演・展示の実施も可能とする）
交流スペース	●市民活動を支え、交流を促すことのできる『交流スペース・会議室』	・文化芸術に限らず、 <u>幅広い分野にわたる活動</u> ができるほか、オープンな雰囲気、情報交換、会議、学習、休憩など、市民・団体・学生など、 <u>誰でも気軽に使用することのできる交流スペース</u> （例：コワークスペース、会議、イベント、カフェ・飲食可能なスペースなど） →市民が気軽に立ち寄り交流ができる場 →同じような活動している人とのつながりの場	・大きさの異なる複数の諸室を配置。他の空間との一体利用も想定
	●市民の誰もが創造し・表現することのできる文化芸術に係る『クリエイティブ空間』	・多様な活動に対応できる多目的スペース（＝ <u>クリエイティブ活動のための空間</u> ） →新しいものとの出会いや新しい思考・創造を表現することのできる場 →特定のジャンルに縛られない多機能に活用可能なスペース →集まる人々によって新しい風景が生まれる場 ・ <u>市民活動・ワークスペースとしての活用</u> のほか、 <u>少人数を対象とした演劇、音楽イベントなどクリエイティブな活動にも対応できる空間</u>	・大きさ・スペックの異なる複数の空間（多様なクリエイティブ活動可能な設え） ・一部の諸室は外に開かれた（見せる）空間とする
展示スペース	●使い勝手の良い『展示スペース兼イベントスペース』	・市民・団体等による展示・イベント、多人数の集会等、 <u>多目的な利用に対応可能な展示スペース</u> （美術、書道、華道などのイベント・展覧会に対応）	・現在、行われている展示系イベントには対応できる規模・設え（但し、市美術展は規模が大きいため、従来通り、県立博物館の使用を想定） ・ <u>複数の空間を併せて、約600㎡で使用できる空間イメージ</u>
収蔵・保管スペース	●収蔵と展示を兼ね備えた『見せる収蔵庫』	・地元芸術家などの作品の収蔵や大型楽器などの保管に対応可能な <u>収蔵・保管機能を確保</u> するとともに、展示も兼ね備えた <u>外から見える収蔵庫</u> →収蔵に展示を兼ねることで、市民が自然に文化に触れる機会を創出 ※収蔵庫の整備までに、収蔵品の棚卸・仕分け（県との役割分担）等が整理されていることが前提	・規模は、収蔵する美術品の内容・量による（※収蔵品の棚卸・仕分けなどが必要） ・交流機能や展示機能の空間と一体利用することで、展示の実施も想定
駐車場	●『使いやすい駐車場』	・2輪車、普通車（ハートフル含む）など、各種車両に対応可能な駐車場	・立地、施設内容に応じる

□その他想定される機能（会議・WSでの意見を踏まえて）

育成・発信機能	●多様な市民活動を支えるための各種支援・情報発信を行う機能	・専門家だけでなく、 <u>市民の創造・表現などの活動をサポートする情報収集・発信の場</u> →創造活動・文化活動に関する多様な相談・ <u>育成機能（キュレーター、学芸員等専門家等の配置）</u> →多様な世代に向けたイベント・ワークショップの企画・開催の実施等（例：子供向けのワークショップ開催、親子参加型のイベント開催、中高生向け、美術・芸術に触れる体験の場、人材育成のための学びの会など） ※人員や組織を置くなど、 <u>新たな体制の構築</u> については、コスト・体制等を踏まえて、今後検討	・諸室は交流機能と兼用
---------	-------------------------------	---	-------------